

神戸の研究 臨時休業中課題①

課題 次の記事は神戸にやってくる外国人観光客について述べたものである。この記事によれば、神戸を訪れる外国人観光客は、大阪や京都と比べるとかなり少ないようである。この状況を改善するための、あなたならではの外国人呼び込み策を考え、「外国人向けの観光案内」を作成しなさい。作成方法の詳細は記事の後のルールを参考にすること。

なぜ…神戸、外国人観光客の“人気低迷”くっきり 三宮訪問者、大阪・ミナミの10分の1

日本を訪れる外国人観光客（インバウンド）が急増し、関西では大阪、京都の観光スポットが連日大勢の外国人でにぎわっているのに対し、神戸を訪れる訪日客は極端に少ない。こんな傾向が、三菱総合研究所が行った調査で明らかになった。神戸といえば、海と山に挟まれた美しい景色に恵まれ、異国情緒が漂うおしゃれな街として人気を呼びそうだが、なぜか訪日客の足は向かない様子。「呼び込むための新たな仕掛けが必要なのかもしれない」と指摘する声もある。

同研究所は今年2月と7月、関西国際空港から出国する外国人旅行者（約4千サンプル）に対して聞き取り調査を実施。この結果から、昨年1年間に訪れた旅行者の数を観光地・エリアごとに推計した。

これによると、大阪では「難波・心斎橋」がダントツの702万人で、「梅田・大阪駅周辺」551万人、「大阪城」443万人と続いた。京都ではトップの「東山」が480万人。「京都駅周辺」は371万人、「金閣寺周辺」は274万人となっている。

これに対し「神戸・三宮」は74万人。「難波・心斎橋」の10分の1ほどの水準にとどまっている。

府県間の流動量（移動の延べ回数）に関しても、「大阪－京都」の延べ1434万人に対し、「大阪－兵庫」は延べ384万人だった。

「京都には歴史、大阪には食や買い物といった楽しみがある。神戸の異国情緒は、日本人にとっては魅力的だが、訪日客にはそう写らないのかも」。三菱総合研究所の担当者はこう推察しながら「それにしても少なすぎるという感覚はある」と首をかしげる。その上で、呼び込み策として「外国人が好みそうなスポットのPR、行って体験してみたいくなるような仕掛けが必要なのかもしれない」と話した。

【観光案内作成のルール】

- ①様式は問わない。画用紙などを使用して作成するもよし、コピー用紙やレポート用紙に作成するもよし、コンピュータを利用して本格的なものを作成するもよし。あなたたちのセンスに任せます。
- ②観光案内に必ず入れる要素は以下の通り。
 - ・ 北区を含めて、3つ以上の区の名所・観光スポットを含むこと。
 - ・ その名所・スポットなどをなぜ紹介するのか、明確かつ説得力のある理由などをつけること。
 - ・ 単なる名所紹介ではなく、1日の観光ルート案内もつけるとさらによい。その際、どのような交通手段で移動するのか？（原則として公共交通機関[鉄道やバス]を利用すること）、どれくらいの移動時間・滞在時間を想定するのか？ などできる限り詳しいものを作成してみましょう！
- ③あくまでも「外国人向けの観光案内」です。日本語だけでなく、英語など他の言語でも翻訳したものがあれば面白いですよ…!? （ただし、これは出来ればで構いません。）

最後に…課題の提出は **学校再開後の最初の神戸の研究の授業** とします。

時間はたっぷりあるはず!?なので、いい作品お待ちしております！